
味の変化

銀雀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

味の変化

【Nコード】

N2841R

【作者名】

銀雀

【あらすじ】

長年通い続けた夜中のバーにて、いつもと同じカクテルを注文する。

今日も彼女はマスターへと心を打ち明け、それを聞いた彼は場に応じたカクテルを差し出す。

果たして彼は彼女の気に召すカクテルを出せるのでしょうか。

「いつもの、おねがい」

土曜日の夜。

行きつけの店の扉を開け、席につく間もなくオーダーした。かしこまりました、とすぐにマスターが対応してくれる。少しして出された、長年慣れ親しんできた味を楽しんだ。

「この間、彼から言われたの」

肴にと、新鮮な話をマスターへと持ちかけた。

彼は私がここに通い出した頃から何一つ変わらずに、話を聞いてくれている。

「初めて、愛してる、って」

心地のよい味をもう一度、口の中へ広げた。

「でもね、彼、日曜日に私といてくれたことがないの」

酔いが後押しし、徐々に高揚してくる。

「電話もすぐには出てくれないの」

ゆっくりとした雰囲気自身の声が際立つ。

今日もマスターはグラスを拭きながら静かに話を聞いてくれていた。

「…バカよね、私も」

次々に涙が零れていった。

マスターは動揺することなく、そっとハンカチを差し出してくれた。

「彼が、私に見切りをつけたことが今日、ようやく理解できたの」

口についたグラスが、しょっぱかった。

「あの人には、愛してるなんて、」

嘘をつかれなくなかった、声にならない声でその先を言った。
ただひたすら泣き続け、今の惨めな自分を嘆いた。

「人というものは」

ふいにマスターが喋り始め、それと同時にカクテルを作り始めた。

「嘘が絶えない生き物です」

カタカタと音が鳴り響く。

涙は相変わらず止まることはなく、しょっぱさはより酷くなった。

「ですが、そうして騙されたものは学習する機会を得る。
幸せへと、一歩近づくんです」

失礼致します、とカクテルを下げられた。

そして代わりに今作られたばかりの新しいカクテルが前に出された。

「私からの一杯です。」

あなたの傷が少しでも早く、癒えますように」

慰めで出されたカクテルを、遠慮なく口にする。

それは、失恋で荒れた心に深く染み込んでいった。

その日以降、私の慣れ親しんだ味は、しょっぱさが浮かぶ味へと変わった。

（後書き）

一作目の短編のとは真逆のものの悲しい空気を醸し出した小説に仕上げました。

無理に干渉せずただ彼女が進めるようにその後押しをしてくれるマスターを描けていたら幸いです。

彼はきつと彼女が嘘だと見抜いていると分かった上で堂々と甘い言葉をついたんだと思います、確信犯です。

彼女はまさに痛いところを彼に突かれたということでした。

何かしら自分と重ねてしまうところがあったと思います。

随分飛躍的なものになってしまいましたがこれはこれで良いのだと、妥協ではなく真剣に思いたい。
↑

後書きと言う名前補足まで読んでいただき、ありがとうございます。
した。

自作は後書きが短く出来るように頑張りたいと思います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2841r/>

味の変化

2011年10月8日19時03分発行